

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																															
中国デザイン専門学校	1977/3/18	長船 圭二	〒 700-0842 (住所) 岡山県岡山市北区船頭町12番地 (電話) 086-225-0791																															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人第一平田学園	1977/3/18	平田 真一	〒 700-0842 (住所) 岡山県岡山市北区船頭町12番地 (電話) 086-225-0791																															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
工業	工業専門課程	インテリア・プロダクト科	平成23(2011)年度	-	平成26(2014)年度																													
学科の目的	本校のインテリア・プロダクト科は、教育基本法及び学校教育法の趣旨にのっとり、インテリア(建築関連)・プロダクト(工業製品関連)に関する専門的学術を教授し、その技術を修得させると共に、教養を高め、広く社会に貢献できる人物の育成を目的とし、あわせて地方文化の向上に寄与しようとするものである。また、インテリア(建築関連)・プロダクト(工業製品関連)分野の職業に就く為に必要な実践的かつ専門的な能力を、本校独自の産学協同事業やインターンシップ等を企業等の連携を通じ育成することを目的とする。																																	
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)	コンテストやイベントへの参加を通して、実社会で必要とされる能力を実践的に身につけるだけでなく、仕事をすることの喜びや難しさを体験することができる。 取得可能な資格:色彩士検定、ビジネス能力検定、サーティファイクリエイター能力検定、全国建築CAD検定、インテリアコーディネーター資格。 令和4年度中退率: 8.1%																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 105 単位	単位時間 23 単位	単位時間 132 単位	単位時間 40 単位	単位時間 単位	単位時間 単位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																														
45 人	14 人	0 人	0 %	0 %																														
就職等の状況	■卒業者数(C) : 12 人 ■就職希望者数(D) : 12 人 ■就職者数(E) : 11 人 ■地元就職者数(F) : 5 人 ■就職率(E/D) : 92 % ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 45 % ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 92 % ■進学者数 : 0 人 ■その他 : (令和 6 年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 建築、家具・インテリアデザイン販売業界 企業名 : 株式会社タカ建築、タカオ株式会社、株式会社nap																																	
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体 : 受審年月 : 評価結果を掲載したホームページURL																																	
当該学科のホームページURL	https://www.cdc-de.ac.jp/department/fashioncreative/																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A : 単位時間による算定) <table><tr><td>総授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位時間</td></tr><tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位時間</td></tr><tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位時間</td></tr></table> (B : 単位数による算定) <table><tr><td>総単位数</td><td>13 単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>8 単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>0 単位</td></tr><tr><td>うち必修単位数</td><td>11 単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>10 単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>0 単位</td></tr><tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>2 単位</td></tr></table>						総授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間	うち必修授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間	総単位数	13 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	8 単位	うち企業等と連携した演習の単位数	0 単位	うち必修単位数	11 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	10 単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	2 単位
総授業時数	0 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間																																	
うち必修授業時数	単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間																																	
総単位数	13 単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	8 単位																																	
うち企業等と連携した演習の単位数	0 単位																																	
うち必修単位数	11 単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	10 単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	2 単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table><tr><td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td><td>3 人</td></tr><tr><td>② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>計</td><td>3 人</td></tr></table> <table><tr><td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td><td>2 人</td></tr></table>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3 人	② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人	③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人	計	3 人	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	2 人														
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3 人																																	
② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人																																	
③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																																	
⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人																																	
計	3 人																																	
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	2 人																																	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

職業実践専門課程の基本方針である、「高等学校における教育の基礎の上に、深く専門的な程度において専修学校の教育を施すにふさわしい授業科目を開設しなければならない。」を基に教育課程を編成する。

授業内容は、企業等の要請を十分に活かしつつ職業に必要な実践的かつ専門的な能力を学生一人一人が身につけるため、学内での演習実習に加え、アパレル関連企業等と多く関わる内容とする。主な就職先であるアパレル業界における人材の専門性に関する動向や、地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などを把握し教育内容へ落とし込むため、教育編成委員や実習先企業等へのヒアリングやアンケート等を定期的に実施し教育課程の改善を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は校長の下に組織され、委員会を経て当校のカリキュラム編成及び授業内容に対する意見を検討する。

委員会で出た意見はカリキュラム会議にて審議され、校長の許可を経て審議された内容を授業カリキュラムに反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
岡野 英美	特定非営利活動法人 ENNOVA OKAYAMA	令和4年4月1日～令和6年3月31日、(2年) 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
守屋 謙太郎	株式会社ケイズ・ユニット 代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日、(2年) 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
藤森 英樹	Pattern Studio SYNERGY 代表	令和4年4月1日～令和6年3月31日、(2年) 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
丹羽 雅人	株式会社丹羽建築設計事務所 代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日、(2年) 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
藤原 敏嗣	famo.DESIGN STUDIO 代表	令和4年4月1日～令和6年3月31日、(2年) 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
森 大起	VICICA 代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
滝澤 宏行	ビジネスセンター岡山株式会社 事業本部副本部長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
長船 圭二	中国デザイン専門学校 校長	令和4年4月1日～令和6年3月31日、(2年) 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
宮本 真由美	中国デザイン専門学校 服飾専門課程 科長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
宮脇 成也	中国デザイン専門学校 ビジュアルデザイン科 ITデジタルクリエイター科 科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日、(2年) 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
秋岡 昌彦	中国デザイン専門学校 インテリア・プロダクト科 科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日、(2年) 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
花田 洋通	中国デザイン専門学校 教務課長	令和4年4月1日～令和6年3月31日、(2年) 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
平田 真代	中国デザイン専門学校 事務長	令和4年4月1日～令和6年3月31日、(2年) 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (6月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年6月5日 10:30～12:00

第2回 令和7年2月21日 13:30～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

技術のデジタル化が進み、アパレル分野でもAIを使ったコーディネートやフィッティングが商業的に行われている。学校現場でも積極的にデジタル技術の習得を図ることが必要。

(活用) 社会で利用されているデジタル技術の学習を授業に取り入れることは早急な実施が求められるため、ソフトウェアなど専用設備を導入し、カリキュラム改定を行うこととした。外部講師や企業の意見・情報を収集した上、導入する新設備を選定し、翌年度以降の授業へ展開することとした。またこれまで実施していた科目については、デジタル技術関連授業が増える代わりに減らす必要もあり、実施しない内容は企業からの意見も取り入れながら同時に精査を行いカリキュラム改定を行う。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等と本校の連携によるインターンシップや、本校独自の企業等より業務委託を受け授業内で取り組む制度「DEATCH（デッチ）」を通じ、学生にデザイン・ファッション分野企業の現場及び業務を経験させ、学内授業では得ることが困難な実践的で幅広い見識と実社会への適応性を身につけさせることを目的とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本校2年次にデザイン・ファッション分野企業等におけるインターンシップを実施。また、企業等からの業務委託を受け制作を行う「DEATCH（デッチ）」では、次に定める項目のいずれかを授業内実習として実施している。

(1)コンペティション形式業務委託

(2)現場実習形式業務委託

(3)依頼制作形式業務委託

(4)その他、協議のうえ別途合意した業務委託

上記を組織的に授業に落とし込み、担当教員が窓口となり企業等担当者と連絡調整を行い、その他企業との打ち合わせ等は学生の自主性を重んじ単独で実施する。

制作後は企業担当者より評価票様式により成果の評価があり、その評価内容を担当教員より反省点・改善点をふまえて学生へフィードバックし、成績を評価する。また、学科・学校全体の教育の質の確保・向上のため、参考材料として学校へ報告する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
職業実習	4.【校外】企業等が主催するインターンシップ等(学科が主体的に企画していないものを指す。)	夏期期間の7月～8月にかけて、例年インターンシップ実習に取り組む。実習期間は5日～10日前後を設定。企業評価を受ける事を目的とする。	大原組/アトリエsabo/土井/丹羽設計事務所/家具のひらやま/坂田制作所/famo.DESIGN STUDIO/須浪亨商店/uramado kurashiki

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 関連分野における先進的な知識・技能等を修得するために「教職員研修規定」を定め、教職員の研修等に組織的・継続的に取り組む。研修は専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修と、授業及び学生に対する指導力等を修得・向上するための研修を主な内容とする。 年度始めに教職員全員が研修年間計画を作成提出する他、必要により所属長の命令によって研修を指示する場合も研修費用は学校が一部補助し全体のレベルアップに努める。	
(2)研修等の実績	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名： 2025年SS展示会視察 期間： 2024年9月4日 内容 各デザイナー陣による最新ファッションの知識を得ることでファッション販売に関する指導力の向上を図る研修。	連携企業等： 株式会社アンジェロ・ジャパン 対象： 教員
研修名： Maya 初級トレーニング 期間： 2024年9月27日 内容 専門ソフトを使用し各種エフェクト・シミュレーション機能のセットアップ方法、レンダリングのための設定方法を習得する研修。	連携企業等： Tootトレーニングセンター 対象： 教員
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名： 専修学校新任教員研修 期間： 2024年8月1日～8月3日、8月5日～7日 内容 新採用教員を対象に、専修学校教員にとって必要な基礎的知識の習得を目的に、教職科目を中心とした講義・演習を行う研修。	連携企業等： 岡山県専修学校各種学校振興会 対象： 新採用教員
研修名： 教職員のキャリアデザインワークショップ 期間： 2024年7月21日～8月12日 内容 自らのキャリアパスを考え組織の中での一員としての将来設計を行うことで学校と教職員の成長を図る研修。	連携企業等： 職業教育・キャリア教育財団 対象： 教職員

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Adobe Illustrator 導入者向けトレーニング	連携企業等:	ボーンデジタル
期間:	2025年6月26日	対象:	教員
内容	Adobe Illustratorを使用した導入者向けトレーニングにより操作方法を身に付けることで、担当科目の指導力を強化する研修。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	職業人としての汎用的能力を養うアクティブ・ラーニングの体験学習	連携企業等:	職業教育・キャリア教育財団
期間:	2025年7月、8月	対象:	教職員
内容	アクティブ・ラーニングを指導に取り入れる効果的手法を身に付ける研修		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

各専攻分野企業等から委員が参画した学校関係者評価委員を設置する。特に企業等との密接な連携による取り組みを重要と考え、学校評価を通じた組織的・継続的な教育活等の改善を基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2 学校の特色はなにか 1-3 学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-4 運営方針は定められているか 2-5 事業計画は定められているか 2-5 事業計画は定められているか 2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-8 意思決定システムは確立されているか 2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、達成することが可能なレベルとして、明確に定められているか 3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか 3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-14 授業評価の実施・評価体制はあるか 3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-17 資格取得の指導体制はあるか 3-18 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか
(4)学修成果	4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 4-20 資格取得に関する目標を達成したか 4-21 退学率の低減に関する目標を達成したか 4-22 卒業生・在校生は社会で活躍し、評価を得ているか
(5)学生支援	5-23 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか 5-24 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか 5-25 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか 5-26 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか 5-27 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか 5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-29 保護者と適切に連携しているか 5-30 卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応出来るよう整備されているか 6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-33 防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-34 学生募集活動は適正に行われているか 7-35 就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍の教育成果は、学生募集に貢献したか 7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか 7-37 学納金は妥当なものとなっているか

(8)財務	8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-40 財務について会計監査が適正に行われているか 8-41 財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-45 自己点検・自己評価結果の公開はしているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-46 教育資源を活かした社会貢献 10-47 ボランティア活動の支援
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者者の評価結果や改善方策等の内、特に企業等から参画した委員の意見については、学科の「カリキュラムや授業等の作成・見直し等」「産学官連携によるインターンシップ、実習等」「教職員の研修等」の教育活動やその他「教育理念・目的・育成人材像」「学生支援」等、学校運営の改善等に活かせるよう意見を検討し、改善に取り組んでいる。
学生数を増やすため、デザインに関する関心が高まっている今、地域おこしプランディングと学校プログラムが関わる取り組みが役立つのではないかと外部委員より意見があり、例年県や市など公的機関が主催するイベントと関わっているため、実施取組についてSNS等を利用し外部へ発信するなど宣伝力強化を行うこととした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
守屋 謙太郎	株式会社ケイズ・ユニット 代表取締役	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
藤森 英樹	Pattern Studio SYNERGY 代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
丹羽 雅人	株式会社丹羽建築設計事務所 代表取締役	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
藤原 敏嗣	famo.DESIGN STUDIO 代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
近藤 和	中国デザイン専門学校 教育助成会 会長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	PTA
藤若 典弘	有限会社ヴィジョンイメージファクトリー 代表取締役	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.cdc-de.ac.jp/info/release/>

公表時期: 2025年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の学生がどのようなカリキュラムを通じて知識・技術・技能を修得しているのか、また、質の高い教育プログラムを提供するために、学校としてどのような工夫・改善に取り組んでいるか等を具体的な教育情報を分かりやすく公表し、本校の特色ある教育活動を積極的に発信する。さらに、本校の基本的な教育組織等に関する情報のほか、教育情報の積極的な公表を通じて、本校教育の質の確保・向上を図る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	●学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色 ●校長名、所在地、連絡先等 ●学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	●入学者に関する受入れ方針及び入学人数、収容定員、在学学生数 ●カリキュラム(科目配当表(科目編成・授業時間数)、時間割、使用する教材など授業方法及び内容、年間の授業計画) ●進級・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準等) ●学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ●資格取得、検定試験合格等の実績 ●卒業者数、卒業後の進路(進学者数・主な進学先、就職者数・主な就職先)
(3)教職員	●教職員数(職名別) ●教職員の組織、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	●キャリア教育への取組状況 ●実習・実技等の取組状況 ●就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	●学校行事への取組状況 ●課外活動(部活動、サークル活動、ボランティア活動等)
(6)学生の生活支援	●学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	●学生納付金の取扱い(金額、納入時期等) ●活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料減免等の案内等)
(8)学校の財務	●貸借対照表、収支計算書
(9)学校評価	●自己評価・学校関係者評価の結果 ●評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.cdc-de.ac.jp/info/release/>

公表時期: 2025年6月30日

授業科目等の概要

(工業専門課程 インテリア・プロダクト科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			体育実習	夏期に3日間の集中講座を行う。履修者はバドミントン、テニス、アクティビティから選択する。どの科目も基礎的なフォームから学び、初級、中級、上級コースで自分にあったレベルの技術を習得する。	1	34	1			○		○	○		
2	○			デザイン概論	テキスト「クリエイティブ・アイデアのヒミツとヒケツ」を使って講義をおこなう。その他制作プロセスを知るためのデザイン制作も行う。	1 前	17	1	○			○		○		
3	○			修学基礎	学校生活を円滑に送れるようにルールやシステムの理解を促すとともに、社会人基礎力について学ぶ。また自己理解・他社理解を行い、学校生活での目標設定を定める。	1 前	17	1	○			○		○		
4	○			色彩士検定3級	色彩において、必要に応じ、正確に色彩について理解し提案できる能力を身に付ける。色彩士検定3級合格を目指す。	1 前	17	1	○			○		○		
5			○	ベーシックデザイン（立体）	図面、図法の基本を理解する。立体をイメージし、平面上で製図をし、立体に組み立て表現する。蛇腹折りでは上記プロセスに手作業をプラスし、ねばり強くデザインする姿勢を身につける。	1 前	51	3		○		○			○	
6			○	ベーシックデザイン（デッサン）	鉛筆デッサンを中心に、指定されたモチーフを紙に描く。	1 前	34	2		○		○			○	
7			○	ベーシックデザイン（色彩）	テキストを用いて各单元ごとにプリントを通じて知識を身につけていくとともに、一单元、一課題で理解を深めていく。	1 前	34	2		○		○			○	
8			○	ベーシックデザイン（クロッキー）	15分単位で学生にモデルになってもらってクロッキーをする。授業ごとにポーズを変えたり、アイテムを持ったりして、様々なポーズを描く。重心、バランス、骨格など描く上で必要な要素を学ぶ。	1 前	34	2		○		○		○		
9	○			キャリアデザイン	仕事、職場のシュミレーションとして共同作業、グループワークをおこなう。	1 後	17	1	○			○		○		
10			○	夏期集中講座	通常授業にはない各専門分野に特化した授業内容を3日間の実習または講義形式で行う。	1 前	34	2			○	○			○	
11			○	冬期集中講座	通常授業にはない各専門分野に特化した授業内容を3日間の実習または講義形式で行う。	1 後	17	1			○	○			○	
12			○	図法	各種投影図法に関する講義と、製図道具として不可欠な三角スケールを使い、図面の作図演習を密接に結び付け、スケール感覚を修得する。フリーハンドスケッチや、図面の美的構成といった観点からも、作図という実践を通じて体得する。	1 前	51	3		○		○		○		

13				○	素材加工①	加工方法の説明→デザイン・設計→制作→文章と口答でのプレゼンテーションを3度繰り返し行なう。	1 前	51	3			○		○		○		
14				○	素材加工②	服飾雑貨制作を中心に縫製の基本的な技術を学ぶ。エプロン、バッグなどを共通課題として制作。布地の裁断、ミシン縫製、仕上げをおこなう。	1 前	51	3			○		○		○		
15				○	素材加工③	スタイロフォームやバルサ材などのさまざまな素材を使った模型制作の技術を身につけるための演習をおこなう。	1 前	51	3			○		○		○		
16				○	P C 入門	Adobe Illustrator と Photoshop の基本操作の説明。オブジェクトの作成・編集方法を学ぶ。課題制作では、配布の Illustrator ドリルを制作する。Photoshop では簡単な画像編集と、Illustrator への画像のリンクの仕方を学ぶ。	1 前	16	1			○		○		○		
17				○	スペースデザイン入門	身近な場所を決定してその場所の寸法を測りそれを 50 分の 1 の図面とする。そしてその図の平面を利用して自分独自の場所を作ってみる。平面図・断面図・完成予想図を作成する。完成予想図にはその部屋にいる自分自身を入れて表	1 後	34	2			○		○				○
18				○	家具入門	家具を作る上で主要な素材となる木材の加工法の基礎を身につける。講義を交えて実際に手を動かして小物を作る事で素材や用具に対する理解を深める。	1 後	51	3			○		○		○		
19				○	雑貨入門	平面でアイデアを考えられる作品制作から徐々に立体でアイデアを考える作品制作をしていく。素材のあつかいと工具の使用を身につける。機能やしぐみを考え、各々の作品に適した寸法や構造、寸法を導き出せるようになる。	1 後	51	3			○		○				○
20				○	セラミック入門	陶土での基礎的な成型方法・加飾方法を学ぶ。アイデアスケッチ、成形、焼成などの各過程を知ることで土が作品に変化していく様子がわかる。たまづくりで腕、ひもづくりでふたもの、たたらずくりで皿を作る。	1 後	51	3			○		○				○
21				○	ジュエリー入門	切る・接合する・曲げる・延ばすなどの基本的な加工方法を一つの技術で一つの作品を制作しながら確実にマスターしていく。2 年次、3 年次にいくつかの技術を複合して作品制作する時に高品質なモノが作れるように徹底的に基礎を重視して授業を進める。	1 後	51	3			○		○				○
22				○	プレゼンテーション I	進級制作と連動して、作品イメージを伝える為のプレゼンボードを PC を使って制作する。	1 後	51	3			○		○				○
23				○	C A D 入門	C A D にて図面が描くことができるようになる。スケール感や寸法との比較ができるようになる。簡単な家具図面やインテリアの図面を描くことができるようになる。今後の自分たちの課題等にいかせるようになる。	1 後	34	2			○		○				○
24	○				ライフデザイン①	クラスでの活動を通じて計画性、協調性を身に付けデザイナーとしての能力向上を目指す。	1 前	119	1					○	○		○	○
25	○				ライフデザイン②	クラスでの活動を通じて計画性、協調性を身に付けデザイナーとしての能力向上を目指します。	1 後	34	1					○	○		○	○
26	○				進級制作 I	指定された段ボールを用いて、椅子を制作する。キーワード①椅子の置かれる環境②身体的な寸法との関係③美的感覚④材料の特性を活かす⑤大人が座っても耐えられる強度⑥効果的なプレゼンテーション…。成果物として①段ボール椅子（1脚）②プレゼンテーションボード（B2サイズ）	1 後	153	2					○	○		○	

27			○	情報デザイン 検定	情報デザイン力は「社会で働き始める人に必要な力」。情報を分かりやすく使ったり、伝える事ができるようになり、コミュニケーション力が高まる。	2 前	17	1	○			○		○					
28	○			フリーゼミ	広告、出版、アート、アニメ、マンガ、プロダクト、インテリアなどの業界について、ワークショップなども交えながら講義を受ける。	2 前	16	1	○			○				○	○		
29	○			インターン シップ	夏期期間の7月～8月にかけて、例年インターンシップ実習に取り組む。実習期間は5日～10日前後を設定。企業評価を受ける事を目的とする。	2 前	17	1	○					○		○	○		
30		○		夏期集中講座	通常授業にはない各専門分野に特化した授業内容を3日間の実習または講義形式で行う。	2 前	34	2				○	○				○		
31		○		冬期集中講座	通常授業にはない各専門分野に特化した授業内容を3日間の実習または講義形式で行う。	2 後	17	1				○	○				○		
32	○			職業実習	夏期期間の7月～8月にかけて、例年インターンシップ実習に取り組む。実習期間は5日～10日前後を設定。企業評価を受ける事を目的とする。	2	65	1				○	○				○	○	
33		○		建築法規	建築物の災害から国民の生命、健康、財産などを保護するために建築の最低基準を中心に、建築士法・建築業法の関連法令を学ぶ。	2 前	34	2	○				○			○			
34		○		建築設備	教科書に基づき、建築設備の各内容を役割と主旨を把握しながら学習する。	2 前	34	2	○				○				○		
35		○		建築製図Ⅱ① -a	木造平屋建の図面トレースによって各図面を理解するとともに、建築的条件のもと、身近な住宅を自らプランニングしたものを、各図面で表現する。	2 前	34	2		○			○			○			
36		○		建築製図Ⅱ① -b	木造2階建の図面トレースによって平屋建にはなかった、上・下階の空間的なつながり（階段の取り方）を理解するとともに、建築的条件のもと、身近な住宅を自らプランニングしたものを、各図面で表現する。	2 前	34	2		○			○			○			
37		○		建築製図Ⅱ② -a	岡山建築設計クラブ主催のワンデーエクササイズに参加します。ワンデーエクササイズ終了後は進級制作に移ります。	2 後	34	2		○			○			○			
38		○		建築製図Ⅱ② -b	岡山建築設計クラブ主催のワンデーエクササイズに参加します。ワンデーエクササイズ終了後は進級制作に移ります。	2 後	34	2		○			○			○			
39		○		C A D I	CADソフトを利用した立体図や建築図面の作図法を身につける。	2 前	34	2		○			○			○			
40			○	スペースデザイン 演習Ⅰ	瀬戸内海に面した南向きの穏やかな傾斜地で床面積50平方メートル程度の別荘の設計をしてもらいたいと思います。	2 前	34	2		○			○				○		
41		○		スペースデザイン 演習Ⅱ	2年次のまとめである進級制作を最後のプレゼンテーションを含めて考えて制作する。	2 後	34	2		○			○				○		
42		○		建築環境	教科書に基づき、環境・設備の各内容を主旨を把握しながら学習する。	2 後	34	2	○				○				○		

43		○	建築計画	建築物を取り巻く自然環境と都市環境に関する基本的要素との中で快適な室内環境を作り出すために必要な方法など建築的な事項を学習する。	2後	34	2	○			○		○		
44		○	家具演習Ⅰ	自分で考案した家具を、模型制作→作図→積算→材料手配→制作の順に計画的に制作します。手加工が前提ですが、場合によっては機械も使用します。	2前	51	3		○		○		○		
45		○	家具演習Ⅱ	本講座は後期の始めから10回実施する。成形合板の技術を用いて、製品をデザインする。一つの型を用いて定められた材料をどのようにして価値あるものにするか挑戦してみる。	2後	27	2		○		○		○		
46		○	雑貨演習Ⅰ	樹脂製のキーホルダー制作。各自オリジナルのキーホルダーをデザインし、粘土等で原型を制作後、シリコンゴムで型どりし、樹脂で成形する。 レプリカを制作する為の工具や材料の加工テクニックを学習する。	2前	51	3		○		○		○		
47		○	雑貨演習Ⅱ	進級や卒業制作を意識し市場に出回っている商品のレプリカを制作することで、技法や制作プロセスについて学習する。	2後	27	2		○		○			○	
48		○	ジュエリー演習Ⅰ	モノを作るにあたっての段取り（作業を進める順序）や、どの部分から作り始めればよいのか工程重視で授業を進める。あわせてコスト・計算・プレゼンテーションなどがスムーズにできるようにし、学生個々の弱いところの克服・強化を目指す。	2前	51	3		○		○			○	
49		○	ジュエリー演習Ⅱ	手吹き・遠心鑄造・真空吸引鑄造・高周波真空加圧鑄造etc、ロスト・ワックス・キャスティングの原理から量産の方法までを理解し、実際に圧迫を使用した手吹き法で、すべてを通して個人で行うことにより完全にマスターし、作品作りの幅を広げ、今後活かせるようにする。	2後	27	2		○		○			○	
50		○	インテリアコーディネーター演習Ⅰ	教科書を中心に、インテリアの歴史、計画、各エレメントについて学習する。将来的に資格取得ができるよう目指す。	2前	34	2		○		○			○	
51		○	インテリアコーディネーター演習Ⅱ	教科書を中心に、インテリアの歴史、計画、各エレメントについて学習する。将来的に資格取得ができるよう目指す。	2後	34	2		○		○			○	
52		○	3DCG演習Ⅰ	3DCGソフトの使い方をマスターする。	2前	51	3		○		○		○		
53		○	プロダクト企画Ⅰ	デザインフェスタに参加出展するためのグループ編成、企画を立てる。3,000円で販売する商品を企画する。出展申込、手続き等も授業の中でおこなう。	2前	32	2		○		○			○	
54		○	プロダクト制作Ⅰ	1期のプロダクト企画に基き、作品制作をする。サンプル制作では、自分のねらいに近づけるための工夫をしながら、試作をくりかえす。作品制作では、作る方法・材料の価格・制作時間などを考慮し、効率よく生産する。	2前	32	2		○		○			○	
55		○	プロダクト販売Ⅰ	展示会に必要な販売促進グッズなど作品を向上させるアイテムを制作する。チームごとの取り組みで、計画性、協調性を養い、自分たちが制作した作品がより良く感じられるようなディスプレイを経験する。また、会計資料を作成することで資金面での流れや取り組みの重要性を経験する。販売でのマナーを学ぶ。	2後	34	2		○		○			○	

56			○	プロダクト展示Ⅰ	販売企画と連動し、ディスプレイの制作をする。展示効果を考えた設計をする。搬出入を予想し、組み立てや分解・運搬の容易ディスプレイを制作する。	2 後	34	2		○		○			○	
57			○	プレゼンテーションⅡ	進級制作・卒業制作のプレゼンテーションの中で、模型制作に絞り込んだ制作を行う。	2 後	51	3		○		○			○	
58			○	パースペクティブ①	2年次に習得した1点パースを確実なものにし、色彩で色付けを習得する。木や石など建築で使うものを色で正確に表現できるようにする。	2 後	34	2		○		○			○	
合計						107	科目	4546 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：課程修了には、総計105単位以上を習得しなければならない。		1学年の学期区分	2期
履修方法：学科目を履修した場合に審査を行い、合格した者に対して単位を認定する。		1学期の授業期間	17週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。